

## 飼料・肥料等高騰対応策—わたしたちの取組— (2023 版)

畜産酪農研究センター

資材価格高騰はセンターの牧場経営にも影響が出ております。  
抜本的な解決にはなりません、センターで工夫していることや取り組んでいることをお伝えしますので、ご参考いただければと思います。

### 1 自給粗飼料を最大量確保する

□牧草は全て奨励品種を栽培しています。(奨励品種の無い牧草は除く。)

□播種適期を遵守しています。

オーチャードグラスは9月中旬に、イタリアンライグラスは10月中旬に播種するようにしています。昨年、10月末に播種したイタリアンライグラスは発芽ムラが大きく収量が低かったため、今年度は10月中旬までに播種予定です。

□越夏性のイタリアンを利用しています。

夏枯れもありますが適切に播種すれば周年に近く利用できます。

□窒素肥料を補完するため、永年牧草更新時にシロクローバーを混播しました。



マメ科率が10~15%増えると4~6kg/10aの窒素肥料が節減できるそうです。(ただし使える除草剤が少ないため、一部試験的に行いました。)

□トウモロコシの播種密度は7,000本/10aを目安に播種機を設定しています。

多少の欠株があっても収量への影響は少ないようです。

牧草は雑草の繁茂を防ぐため、できるだけムラ無く播種しています。

□トウモロコシは効果的な雑草防除を励行しています。

土壌処理はほ場を平坦に鎮圧し、土の乾燥具合で水量を変えています。茎葉処理は雑草の発生を見てそれに合った薬剤を散布します。

□ロールバールはネズミの隠れ場所を無くす置き方(広々配置)をしています。



## 2 飼料費節約の工夫

### 【乳牛】

- 配合飼料給与量を随時見直し、節約を心がけています。  
当面は、搾乳ロボットの回転効率を意識した飼養管理で乳量をカバーし、生産目標が達成できるよう努めています。
- TMR 調整で中途半端に余ったコーンサイレージはパドックで給与するなど、一粒も無駄にせず給与するよう努めています。また飼養牛の計画的な更新で、パドック飼養頭数の削減を行っています。
- 能力の低い乳牛は早めに廃用を判断し、適正頭数による飼養管理を行います。

### 【肉用牛】

- ネズミに食われやすい飼料は少量ずつ購入し、ネズミ駆除に力を入れています。
- パドックでの給与ロスを軽減するため、他県の事例などを参考に、足場パイプ、クランプ、コンパネ、ワイヤーメッシュ等でラックを作成しました。(材料費約8万円)



### 【養豚】

- センターの研究成果である「去勢肥育豚の夜間制限給餌」を実践しています。
- 肉豚については、豚価市況と飼料価格、さらに繁殖成績などをにらみながら、早期出荷を行い、差益が確保できるように努めています。
- 養豚排水処理施設において、曝気槽内のpH、ORP、SV等を確認しながら適正な曝気量になるよう曝気時間を調整することで、電気代の削減につながりました。